

# 近 現 代

明治—大正—昭和—平成

## <時代概説>

野田は舟運を通じて江戸に直結し、また関宿藩主も幕府の重要な役職についていたため、幕末・維新の変動は当地域にも大きな動揺を与えました。しかし混乱が鎮まって中央集権化が進むにしたがって、新しい発展を始めました。野田の醤油は国内外の博覧会に出品され高い評価を得て、全国的なブランドに成長していきます。また江戸川・利根川には「川蒸気」と呼ばれる蒸気船が就航して輸送力を高め、明治23年(1890)には利根運河も完成しました。

市域の各町村は、葛飾県(かつしかけん)・印旛県(いんぱけん)を経て、明治6年(1873)に千葉県となり、明治22年には旧野田市域が1町5か村、旧関宿町域は1町2か村にまとめられました。学制に基づき、多くの小学校が設立されましたが、次第に統廃合されていきます。茂木小学校をはじめとする小学校は、各地域の生活・文化の中心となっていました。

日露戦争(1903~1905)前後も大きな変化の時代でした。常磐線は明治29年(1896)に開通しましたが、当地域はなお舟運が中心であり、明治33年(1900)には醸造蔵と河岸(荷物を舟に積み込む場所)を結ぶ人車鉄道(じんしゃてつどう)(人が押すトロッコ)が開業しました。しかし輸送力充実が重要な課題となり、明治44年(1911)に醸造家が資金を負担し、野田—柏間に県営軽便鉄道(けんえいけいべんてつどう)を敷設します。また同年には野田電気株式会社が設立され、電灯がつけました。

野田町は災害の多い町でもありました。明治4年(1871)、明治41年(1908)には町の中心部をほぼ焼き尽くす大火に遭い、明治39年(1906)以降には、しばしば大洪水に見まわれました。農村部は、養蚕(ようさん)や葉煙草(はたばこ)などの商品作物を増加させながらも、自給的な農業を続けていました。しかし、交通の便が改善されるに伴い、次第に都市近郊的農業に変化していきます。

第一次世界大戦(1914~1918)による好景気は、野田にも大きな影響を与えました。大正6年(1917)に野田醤油株式会社が設立され、醸造業は一層の発展を遂げます。他方、デモクラシーの中で労働者の組織化も進み、昭和2年(1927)から翌年にかけて、大争議が発生しました。こうした問題をきっかけに、野田醤油は興風会(こうふうかい)を結成し、今でいうメセナ活動を積極化させていきました。

満洲事変(1931)から始まる戦争の時代は、当地域の人々にも大きな影響を与えました。しかし地域に大きな軍事施設を持たず、また爆撃目標ともならなかったため、他地域に比べれば被害は少なかったといえます。

敗戦後、地方行財政の強化が求められる中で、野田町は昭和25年(1950)に旭・七福・梅郷各村と合併して市制を施行し、さらに昭和32年(1957)には福田村・川間村と合併しました。関宿町も昭和30年(1955)に木間ヶ瀬・二川両村と合併しました。平成15年(2003)6月6日には野田市と関宿町が合併して、新「野田市」が誕生しました。市域を広げた野田市には新市民の流入が増加し、その傾向は平成17年(2005)のつくばエクスプレスの開業によって一層強まると予想されています。

- <コラム>
- 近代の野田の醤油醸造業
  - 市域の形成
  - 農作物の盛衰
  - 郷土教育と「郷土誌」
  - 野田の金融と商業
  - 北総鉄道の延長
  - 戦時下の暮らし
  - 野田の戦後改革

年代	主な出来事
<p>明治</p> <p>元年(1868) 2年(1869) 4年(1871)  5年(1872) 6年(1873)  10年(1877)   11年(1878) 17年(1884) 20年(1887) 22年(1889)   23年(1890) 27年(1894) 29年(1896) 33年(1900) 41年(1908) 42年(1909) 44年(1911)</p>	<p>下総知県事に肥後藩士の佐々布貞之丞が任命される 下総知県事の直轄地に葛飾県を設置 野田町で大火 廃藩置県により関宿藩廃止。市域は印旛県となる 関宿城の廃城が決定される 木更津県・印旛県を廃止して千葉県を設置初代県令：柴原和 外輪船「通運丸」が江戸川に就航 第一回内国勲業博覧会に、醤油(亀甲万印)出品、花紋賞牌受賞 勝文斉作「野田醤油醸造図」(押絵額)出品</p> <p style="text-align: center;"><b>&lt;コラム&gt; 近代の野田の醤油醸造業</b></p>  <p style="text-align: right;">醤油工場 (郷土博物館所蔵)</p> <p>郡区町村編成法により、大小区名の廃止 戸長役場所轄区域と学区の更新を実施 野田醤油醸造組合の結成 市制町村制が実施(野田市域は2町7村に編成)される</p> <p style="text-align: center;"><b>&lt;コラム&gt; 市域の形成</b></p> <p style="text-align: center;"><b>&lt;コラム&gt; 農作物の盛衰</b></p>  <p style="text-align: right;">煙草を束ねる作業 (石塚登一郎氏提供)</p> <p>利根運河完成、通水 衆楽園(現清水公園)の開園。(株)千秋社が運営 常磐線開通 野田商誘銀行の設立。野田人車鉄道開業 野田町で大火 電話業務開始 野田-柏間に県営軽便鉄道が開通 (北総鉄道、総武鉄道を経て現東武鉄道へ) 野田電気株式会社設立</p> <p style="text-align: center;"><b>&lt;コラム&gt; 郷土教育と「郷土誌」</b></p> <p style="text-align: right;">『二川村郷土誌』 (二川小学校所蔵)</p> 
<p>大正</p> <p>3年(1914) 6年(1917) 12年(1923)</p>	<p>野田病院の設立 野田醤油株式会社設立 上水道の敷設(県内初)</p> <p style="text-align: center;"><b>&lt;コラム&gt; 野田の金融と商業</b></p> <p style="text-align: center;"><b>&lt;コラム&gt; 北総鉄道の延長</b></p> <p style="text-align: right;">旧野田商誘銀行 (現株)千秋社社屋</p> 
<p>昭和</p> <p>2年(1927) 4年(1929) 8年(1933) 11年(1936) 16年(1941)  20年(1945)  25年(1950) 30年(1955) 32年(1957)  平成 15年(2003)</p>	<p>野田醤油大争議 財団法人興風会の設立。興風会館竣工 窪田味噌が醤油醸造を開始 キノエネ醤油合名会社の設立 太平洋戦争開戦</p> <p style="text-align: center;"><b>&lt;コラム&gt; 戦時下の暮らし</b></p> <p>鈴木貫太郎内閣(4/7~8/15)。終戦</p> <p style="text-align: center;"><b>&lt;コラム&gt; 野田の戦後改革</b></p> <p>野田町・旭村・梅郷村・七福村の1町3村が合併、野田市となる 関宿町・二川村・木間ヶ瀬村の1町2村が合併、関宿町となる 野田市に川間村・福田村の2村を編入合併</p> <p style="text-align: right;">野田警察署(昭和32年頃)</p> 